

豊庄だより



第 741 号 2023 年 1 月 23 日

合同朝の会が感染対策のため、出来ないことが多くなってしまい、話す機会を失い、話す材料が溜まってしまいました。季節のことや、その時でないと話せないことをこれまで話してきただけに、困ってしまいました。

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達



春の七草

その一つに、「春の七草」があります。スーパーで春の七草は販売していません。七草の日は、1月7日でした。話すのが16日になってしまったため、冷蔵庫に入れていたのですが、七草はすっかりしおれてしまっていました。それでも、「せり、なずな、ごぎょう、はこべら…」とみんなで七草の名前を大きな声で言いました。保育園では、13日、20日に給食で「七草がゆ」が登場します。これには何とか間に合いましたが、テレビで「七草がゆ」の話題が提供されるのは1月7日ですから、やはりちょっと遅かったかなと思っています。(写真：すっかりしおれてしまった春の七草)

時機を逸したと言え、**「しめ縄」**です。年末は多くの子どもたちがコロナ禍のため欠席してしまい、いつもなら12月最後の合同朝の会で話すようにしていたのですが、年が明けた1月13日の誕生会の日にしました。司会者から「園長先生の話です～」と言われ、年末から飾っていた、「しめ縄」を取り出しました。松の内を過ぎているので、「しめ縄」を分解し、構成している橙（だいだい）、もろぶき、竹、そして藁（わら）の話をしました。藁は、稲の葉と茎です。農家では、コメを収穫した後、脱穀した藁を納屋で保存し、年末にしめ縄づくりをするのが恒例でした。私も、少年時代、藁を叩いて柔らかくし、しめ縄を作っていました。藁から縄を作るところを見せたかったのですが、日にちが経ちすぎたせいか、乾燥した藁は固くなりうまくできませんでした。

まだあります。十二支の話です。ひまわり組が生活発表会で劇をした十二支ですから、話題にしたかったのですが、これも話す機会に恵まれませんでした。(※写真の羽子板は以前絵画教室の講師をしていただいていた井上先生の作品です。)

そうした中、保育参観(1月21日)をひまわり組に限り実施しました。9時50分開始でしたが、10分前には集合完了。さるかに体操をした後、綱引きをしました。最初はひまわり組を二つに分けて、次にひまわり組対保護者。結果は子どもの勝利でした。とても喜んでいました。運動会で当たり前にしていた綱引き、この日保護者と一緒になってとくんでいる姿を見て、早くコロナ禍が収束し、密な保育ができることを願っています。



羽子板 (作: 井上先生)



園庭で行った綱引き (ひまわり組対5人の大人)